

正午版 報知新聞

行發日一十

暑い時、外套着る

女は見られず、酒は御法度

婦人といふものは全然なく、料理屋で美しい女給にチャホヤされたいと望んでも『木によつて女を求むる如く』困難な國ですな、一體アフガニスタンに美人がゐるかと思はれても『見せない』のだから返事に窮する譯です、かやうな次第で御敵も男が飲めず、またこの國では宗教律に則り豚肉と酒は一切禁止、酒の代りに綠茶を賣

よく飲む、だから左翼にとつては何の楽しみもない場所です、面白くはない、五月頃アンズの開期になると綠茶一瓢を携へて赤い毛布の七五樂装束を穿たり、踊つたり、稻田堤さながらの盛況を呈します、『酒を飲まずに酔舞』とはまさにこのことせう

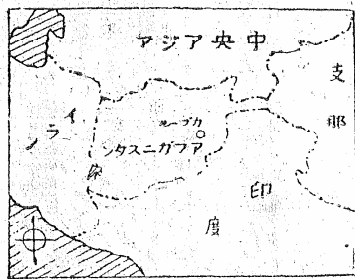
【寫眞はアフガンの子供達】こんな子供のうちは女でも顔を出してゐる】



師技崎尾

「これは不慮な國だわい」聽いてる記者は思はずは思はず膝を乗出した、譯する人は中部アジアの國アフガニスタンに三年間滞在し今故郷朝した

アフガニスタンはソ聯、支那、インド、ペルシヤ四國にかこまれた数千キロの高原地帯だけに初めて入國した時は呼吸が變で、テニスでもしようものなら直ぐ息切れがして弱りました、氣候が乾燥してゐるので食物が腐る心配は絶對にありません、腐る前に乾いて干物みたいになる、同様に大根を干しても化膿しないから安心です、私が一番喜んだのは洗濯物でしてワイ



シャツなど河で洗つて五分間もはぶつて置けば奇麗に乾いてしまひます、またアフガニスタンではどんな激しい運動をやつても汗が出ないので、気温の變化は甚だしく晝と夜で十五度も違ひます、夏

は堪へられない程暑いので土民は冬的外套を着込んで厚着をします、汗をかかない國だから厚着する程光線を防ぐことになつて涼しいのです、日本なら暑いと隣子を明け放す處を、むかふでは逆子を閉め切つて日光をさへぎりもつと曇くなると思地下室へ逃げこみます、だからアフガニスタンの寫眞を眺めて『外套を着てゐるから冬だらう』と想像したら飛んでもない間違ひですよ、この國は新回教國で一切の生活がすべて宗教律によつて支配されるといふ程信仰は深い、たとへば女といふ女（十歳以上）は頭から裾までスワボリと白衣を冠つてゐて親兄弟、親戚以外には顔を見せない、職業



夢のアフガニスタン

尾崎技師のお土産話

林技師尾崎三友氏(三)の語はアフガニスタンの奇々怪々物語